

五期俳句会第五十九会十一月三日

文化の日です、子供のころは明治節と言ったのを思い出します。

秋の空澄み菊の香高き・・・と歌ったものでしたね。

同窓会で明治神宮へ行き代々木の杜を歩きたかったのに生憎の雨。

先月は台風で散々でしたが、さすが天気の特異日、快晴に恵まれましたが、久貝さんがどうしても所用があるとかで書道の要件が済むと、投句のみで帰られました。

秋の雲見通したきは老いの先
今井由紀子

艶のある葉に映ゆ赤きさねかづら
松浦武子

秋鮭が届く季節の北便り
塩田豆子

晩秋の過ぎ行く季ゆきのむなしさや
塩田豆子

時来れば手入れ無くとも乱れ菊
今井由紀子

秋の蝶じれつたい程そばに来ず
浅香さとみ

冬支度あれやこれやと急拵え
塩田豆子

秋まつり拍手応援異邦人
今井由紀子

青空を背景にして檀まゆみの実
松浦武子

ジャズ流る野分け過ぎたる窓辺より
浅香さとみ

通院にまだ手放せぬ秋日傘
久貝貞子

秋暑しマンとで歌う寮歌祭
久貝さだこ

夕風やぶらり柘榴の深き赤
今井由紀子

風なくば氣付かずとほる吾亦紅

松浦武子

お茶席の場所へ矢印文化の日

浅香さとみ

台風を確かめたくて窓のぞく

今井由紀子

秋深し山河越え来し八十路かな

塩田豆子

秋日和リュック背負ひし人増えて

久貝貞子

鴉もす鳴くや贅にえを得し事宣すかに

松浦武子

二季の句や、報告俳句的なもの、感情をもろに使ったのなどが有りますが、
まずまずの出来と思います。先生の居ない状態でも皆頑張っています。